

今回のエコニュースは2014年を振り返ってみようと思います。

◎曙製作所の2014年の振り返り

弊社では、毎年1年を振り返る意味も込めて『10大ニュース』をまとめています。
その内容を 弊社社長のコメントも添えてご紹介します。

TPM実践研 活動が100回目を迎える

… 継続は力なり。有形無形いろいろな形で成果が表れている
本当の成果は来るべき将来にあります。

製造原価イーブン化率の新記録達成

… これは当社指標ですが、過去最高を達成！
良い製品を安く作ることが製造会社の使命です
TPM活動の成果と社員の努力の結晶が表れました

展示会によるプロモーション活動の拡大

… 展示会参加などにより、多方面から多くの引合いをいただき
新分野への参入を果たすことができました

その他、シュミレーションソフト及び複合旋盤の導入で、お客様ニーズと当社シーズの
推し進めた設備投資を行いました

◎ゴミ問題について考えてみよう

今回はゴミについて考えてみましょう
ゴミの中でも一般的な『燃えるゴミ』に注目してみよう
『燃えるゴミ』を一番たくさん出している国はどこだと思いますか？
右の表からわかるように日本のゴミ焼却場数はダントツで世界一です

これほど多くのゴミを燃やしている国は日本だけ！
一人1kgのゴミを毎日出しており、年間で一家庭から約1.5トンのゴミが出ているのです
ゴミ焼却量・ダイオキシン排出量ともに世界一です。

焼却炉の数	
日本	1,243
アメリカ	351
フランス	188
ドイツ	154
イギリス	55
スウェーデン	28

では、環境先進国といわれるヨーロッパではどのような取り組みをしているのでしょうか。
4Rというゴミ処理の原則を循環経済法によって実践しています。

4Rとは		
REFUSE	(リフューズ)	やめる
REDUCE	(リデュース)	減らす
REUSE	(リユース)	再使用
RECYCLE	(リサイクル)	再利用

日本の取り組みは、リサイクルを全面に押し出して活動しているように
感じます。これも大変重要なことです。
しかし、環境先進国といわれるヨーロッパでは、リサイクルは最後の
手段であり、メインとしているのは、リフューズ・リデュースです。
これが大きな違いです。

結果から視ると上記のようなことになりましたが、製造会社・消費者が一体となった取組が進行しています。
私たちは、できることを進んで実行していきましょう

- ◆ 無駄なものを買わずに本当に必要なものを買う
⇒ よく考えてから購入しよう
- ◆ 紙袋や本のカバーなど過剰な包装は断り、買い物袋を持参する
⇒ すでに浸透しているエコバック
- ◆ 使い捨ての物や食品パックなどのプラスチックのものを避ける
⇒ 便利だけど、必要最低限にしてみよう